

第14回

高齢者は特にご注意！ 脚立・はしごからの転落

事故事例

梅を採ろうと脚立に上り、約3mの高さで作業をしていたところ、コンクリートの地面に転落した。物音を聞いた妻が駆けつけたが、呼び掛けに反応がなかった。外傷性くも膜下出血、急性硬膜下血腫、頸椎骨折のけがを負った。(70歳代後半、男性)医療機関ネットワーク*より

脚立やはしごでの作業中に、転倒や転落してしまう事故が繰り返し発生しています。医療機関ネットワークには、2010年12月から2019年2月末までに同種の事故の情報が433件寄せられました。特に60～70歳代で多く起きており、死亡事故や重篤なけがを負った事例もみられます。骨折などのけがをきっかけに、介護が必要な状態になるおそれもあります。

問題点とアドバイス

(1) 脚立やはしごの特徴

脚立やはしごは、足を乗せるステップ(踏ざん)が狭くバランスを取りにくい、昇降面に対して左右に倒れやすいなどの特徴があり、正しく設置しても、作業中の動作によりバランスを崩すことがあります。

(2) 脚立やはしごからの転落を防ぐには

高齢者は、加齢による筋力低下などの身体機能の低下によりバランスを取ることが難しくなる、認知機能の低下により考えながら他の動作をすることが難しくなるなどの特徴があります。また、骨がもろくなることで、骨折しやすくなります。

事故防止には、転落の危険を避けることが大切です。高齢者は無理をせず、身近な若い人や

専門の業者に依頼できないか検討しましょう。どうしても自分自身で作業が必要な場合は、一人きりでの作業はやめましょう。

また、からだを安定させやすい上枠つきや広いステップのもの、用具の転倒を防ぐ「安定性補助器具」を取りつけたもの(写真1、2)など、からだとう具の安定を考えて選ぶことも大切です。からだを支える上枠などが無い脚立の場合、少なくとも2段下のステップに立ち、余らせた上部でからだを支えると安定しやすくなります。

脚立やはしごに上る前に作業内容をイメージしておき、上ってからは、バランスを取ることに集中しましょう。

転落した場合は、自己判断せずに医療機関を受診してください。

写真1 上枠つきの専用脚立



写真2 安定性補助器具取付例



* 消費生活において生命または身体に被害が生じた事故にあり、参画医療機関を受診したことによる事故情報を収集する消費者庁と国民生活センターとの共同事業。2010年12月運用開始

参考：国民生活センター「思わぬ大けがに！高齢者の脚立・はしごからの転落－医療機関ネットワークからみる危害の実態－」(2019年3月28日公表)
http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20190328_2.html